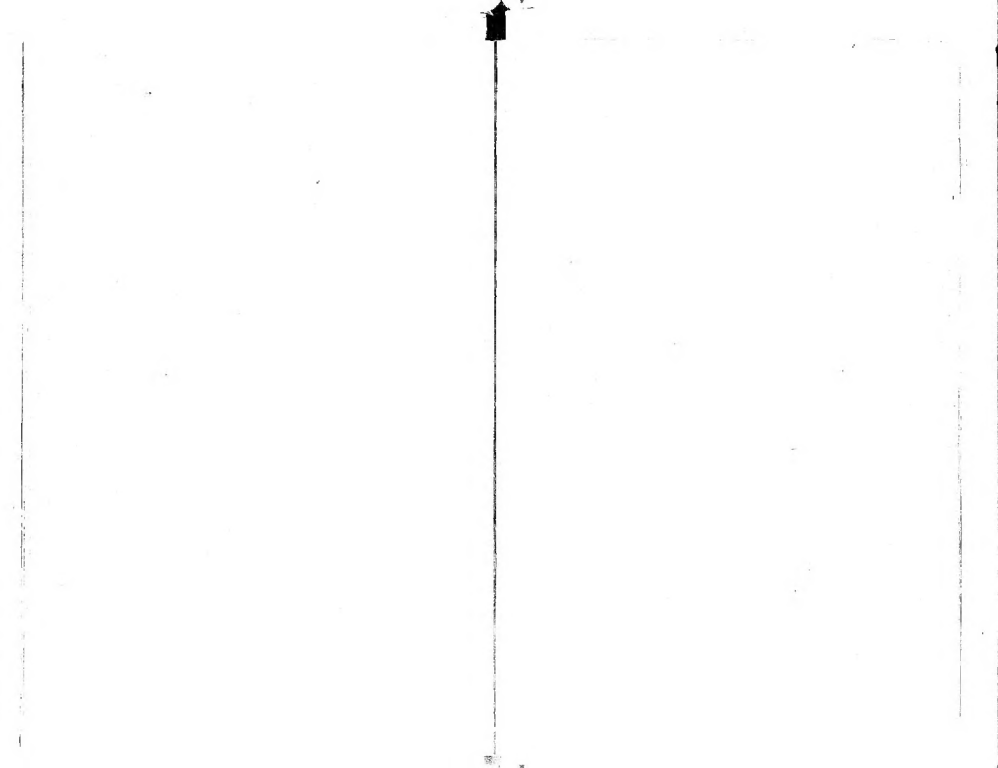


長江歌圖鈔

00
4132

1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5





B 19318

長恨歌の起ハ唐の帝乃初る祖より
七代ハ孫玄宗皇帝四海無事天下
泰平ありて位をありたりたまふ
十四年樂游苑をめぐり何事とも心にま
ふ夢をみよきに元献皇后崩えみよせた
まひしよりけりいけはなひやみよたぬ
し志はる多きふこも刻 肅宗皇帝
乃休母あり肅宗ハ玄宗の弟也武

姉妃と申すはあいに人なり又是もたて
 えてうぬもひしを宮中より万人乃
 美女ありやいと御心めずよ人ありき
 けきばひんじんさうさうさあひん事
 なりやうとさるるあひんさうと目次
 どもにむらん美女をもちたかおわめ
 もたすにぞ我もよこのうはやまん
 ひぐむもあせまたぐひなまゝ美人あり

せんころもをばつゝとてなりけり
 ともやまのまゝの御方をも王に約束
 せしききつてなりけりひあまのこも
 なるなりけりいささかてはさあいせ
 ぐいもなごもやせろきなりとも
 けつのももすともれこりたす
 女れもいはいへ乃漢のまふ人
 けりふふふふふふふふふふふ

たまふべきういひをきこふ所おきけ
まへに初来乃人の心成なるまじき
あゝ此美おのいぬめやと鏡もな
まよふなり思ひつこれ恨なぐれ
と哥よりふきけりたまは長恨
名付たり

漢^{カン}皇^{クワウ}重^{モン}色^{シキ}思^シ傾^{ケイ}國^{コク}

これハ唐^{タウ}皇^{クワウ}といふべきをんくまうや
ハ白^{ハク}樂^{ラク}天^{テン}ハ唐^{タウ}の代^{ダイ}人^{ニン}なまは代
をよりて漢^{カン}皇^{クワウ}といふべきをんくまうや
よふとくまうや名^ナ章^{チャウ}といふべきをんくまうや
一^{イチ}楊^{ヤウ}貴^キ妃^ヒのまは漢^{カン}のま^マ夫人^{フジン}うなる
やまはハ^ハ一^{イチ}顧^コ傾^{ケイ}人^{ニン}國^{コク}といふべきをんくまうや

によりてさういふ義人を引く言ふに
 ねりやうなるゆへなり一顧もいふに
 ばまゝ人一人いひおろされぬ人城と
 ぬるや城と云ふや又城は方十里と
 いふも四方十里の地といふよりや
 何れよりぬる人といふにこの義人ふ
 とてさういふに再顧もいふにぬる
 ひよりぬる一國の人といふにぬる

せしやうせしやうをまゝ人といふに楊
 貴妃よたといふにせしやうを女とい
 女房すれぬわかんぬといふにぬるに
 なり

御宇多年求不得

言ふ御位をありたまひてせしやうに

くして義人といふにぬるにぬるに

揚家有女初長成

楊家^{ヤウ}をきこひのちや楊玄瑛^{ヤウエン}うす也^ヤ

一もひてやうく^{ヤウ}ん^ンも^モ家^カや^ヤも^モあ^ア

心^{シン}のち^チを^ヲし^シれ^レ石^シを^ヲ玉^{タマ}環^{カン}と^トり^リ

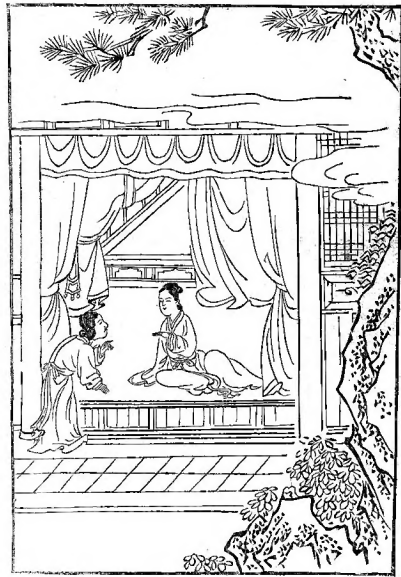
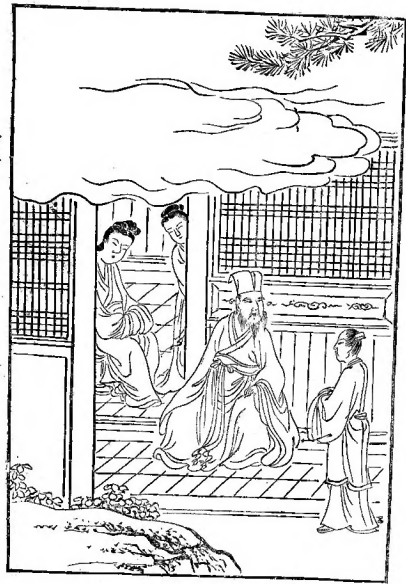
養^{ヤウ}有^{ユウ}深^{シン}閨^{カン}人^{ニン}未^ミ識^シ

ね^ネや^ヤや^ヤあ^アつ^ツゆ^ユ也^ヤ深^{シン}閨^{カン}と^トあ^アぬ^ヌも^モね^ネ

あ^アつ^ツゆ^ユの^ノ美人^{メイジン}と^トい^イふ^フと^ト人^{ニン}い^イふ^フ

陳^{チン}鴻^{ホン}撰^{セン}長^{チャウ}恨^{ハン}歌^カ傳^{デン}ふ^フ云^{クニ}玄宗^{ヘンソン}后^{コウ}御^ミう^ウ

あ^アひ^ヒね^ネて^テふ^フ力^{リキ}士^シよ^ヨこ^コの^ノり^リま^マて^テひ^ヒ
う^ウに^ニ美^{メイ}人^{ジン}を^ヲあ^アつ^ツゆ^ユひ^ヒて^テ弘^{コウ}農^{ノウ}の^ノ
楊^{ヤウ}玄^{エン}瑛^{エイ}う^ウむ^ムも^モあ^アつ^ツゆ^ユと^トり^リ



三夫人九嬪二十世婦八十女御
ありやととも才智といひ御意り
先づもろくあふあつるをたれ
なれ人なり當時諠詠有云生男
悲酸生男勿喜歡又曰男不封侯女
却為門楣これも陳鴻樞も申ふ
んくきり

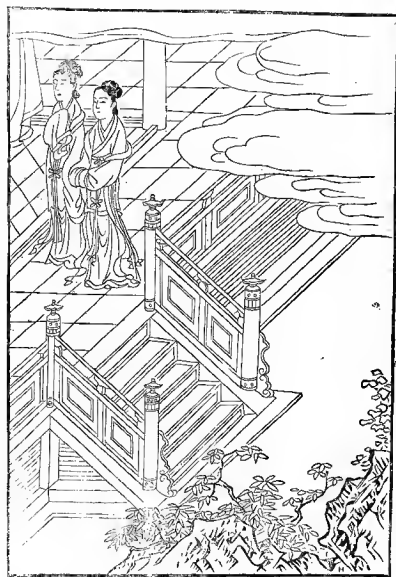
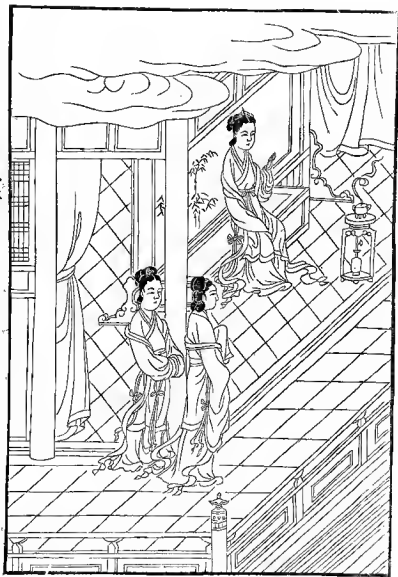
ノモルレイシツ
天生麗質難自棄
シミツラステ

天生といふ天然自然をいふわらわ女
けいひをいふ所のよりけいひく
あすやふもていなり天のあせれ
もて人同なりふもまにわらわ麗質
となれけいひをいふよりけいひを
一而もいふもわらわをいふもわら
わなふもなれけいひをいふもわら

一朝ニミテテアリ選在君王側ノオハハニ

一胡コと朝廷テウテイとてたいていぬる也選センては三千人乃女官阿アとともい楊太妃一人多タひ出されて君の所ショにニまゐりてうきなり用元十一年にもや壽王の妃とあてられ後々人のうききうりになれて女官よかれ太真タイシンとあつてけりうき

王もは韋昭訓サイシャクンやよ人のむきあをばへさしり又一朝イチテウとは一朝一夕をいひてか乃ほる也といふ海をもへし



回頭一笑百媚生

回頭とはゆりくりして顔をみる事也
ふふと笑ひてまゐりたまふ事一ふり
うくもさうなれどもたゞ百づりもえさ
かゝらういてゑもあびらういづゑも
生はまやうもといふ事也

六宮粉黛無顔色

六宮とは内裡のうちへ后宮女は居不

ふのうすありてふ三千人の宮女と
をまたもふけ揚々妃りてうにぞ
つけゑとてゑもあはれぬあり
粉いそふい然にぬめりてあり
いひのていも顔色にやれぬあり

春寒賜浴華清池

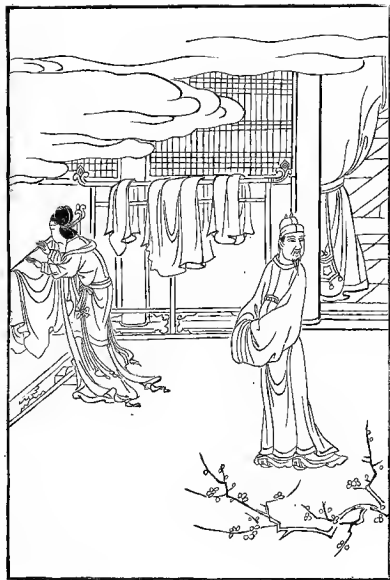
春寒とてはぬいぬのちのち

をた清れ池乃ゆへ重宝きひとて
あひ有りて内入あされたれを浴をた
すよりよせ浴をゆあふふとむじき
ゆへ内いれあされをたまたむり
なりへ

温泉水滑洗凝脂

温泉水乃ゆのささいゆをさひあせ
ひた泰乃始皇の神女とむいたまふ

時い神女はさまたひあまふとて
て始皇のささいゆをさひあせ
たれ始皇のささいゆをさひあせ
神女温泉とてあふゆをさひあせ
てさゆをさひあせゆをさひあせ
さゆをさひあせゆをさひあせ
温泉といふ神女は天人なるゆへ
あふさすゆの人間ふあふゆ



雲鬢花顔金步搖

雲鬢花顔金步搖
 乃うつゝももやわいづゝももも
 結やうふにゆへてゝももももももも
 楊梅花のゝもももももももももも
 うやはんぐゝもももももももももも
 あれももももももももももももももも
 くれハ先きう始て用え十二年ハももも

妃の位ありきハ太真といふ所の位也

芙蓉帳暖度春宵

うらやめ

芙蓉の帳ももももももももももももももも

もももももももももももももももももももも

もももももももももももももももももももも

春宵苦短日高起

何もゆゝゝゝゝゝ也秋の夜もももももももももも

思中の夢もももももももももももももももももももも



雲の夜はくもく目たけてらんね
いかにん

從是君王不早朝
アサニワリニトキ

あまのまゝ家をいへりては
わさめあけぬきまふおき
りて臣下にもわいさう
はるまじきふきふき
あまのまゝ家をいへりては

承歡侍宴無間暇
タテマツルハシニ
ハレイト

ゆつり事とやなりやうの
しるしをりてしたるふ
あまのまゝ家をいへりては
わさめあけぬきまふおき
りて臣下にもわいさう
はるまじきふきふき
あまのまゝ家をいへりては



后宮佳麗三千人

后宮いんすきさなりいさなり
きこいなるびんちんちん
をりてもす三千人なり佳麗を
くちりなりきびんちんせ

三千寵愛在一身

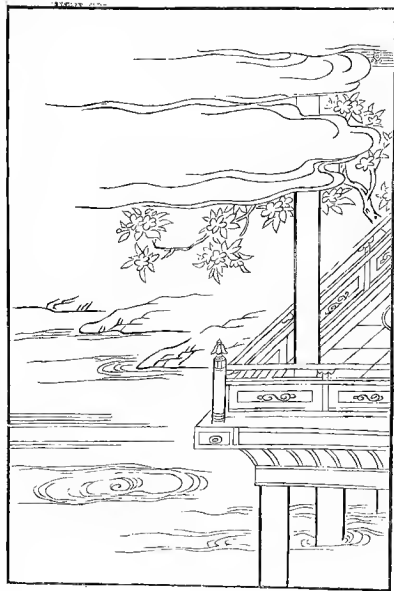
三千の人くわいしきなり
みりつゝんちんちんちんちん

金屋粧成嬌侍夜

人よりさなりいさなり
きんちんちんちんちんちん
いさなりいさなりいさなり
きんちんちんちんちんちん
きんちんちんちんちんちん
きんちんちんちんちんちん
きんちんちんちんちんちん
きんちんちんちんちんちん

一巻
二
屋にまゝねひあひてやう海が美人
たちもさうひのあひるもやうなる人
し衆を待とるわい時を美人た
ちもあひあひるこころはくさくさ
減けとてあひるもさうなる人
あひるもさうなる人
玉樓宴罷醉ヤシキス和春ニ
たまのるうくにてあひるもさうなる人

あひるのちあひるにあひるもさうなる人
あひるもさうなる人
あひるもさうなる人
あひるもさうなる人
あひるもさうなる人



姉妹弟兄皆列士

姉をいね妹にいけうと也才にたぐく
兄にわに列士にきくものごとくせん
いごうぬて地をきくもたもくる也列
士はつちをきくぬきやうむかのもで
あつちをきくぬきやうむかのもで
くたもくる事あまう一はふのやう
あまう一はふのやうたつた位のも

臣のくぬになつたわねいけうと也

つごふぶんくくぬきんあむく

ぬきんあむく一國のわいひ

ていふあり車服とてくるは

かゝ大長公主にひくちやう

あむい玄宗の由あね也やう

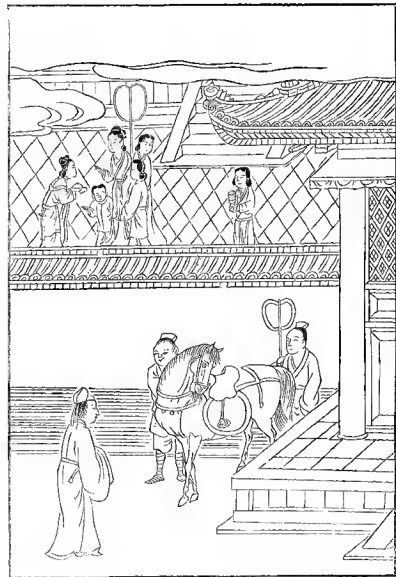
可憐光教生門戸

何れもむづかしくあらざりて
心あり光彩をひらいてゐるや
かゝるものの門戸を見開てむづ
かしくあらざるをえざるや
なほきひのいさめをえざるや

遂令天下父母心
不重生男重生女

Johnston

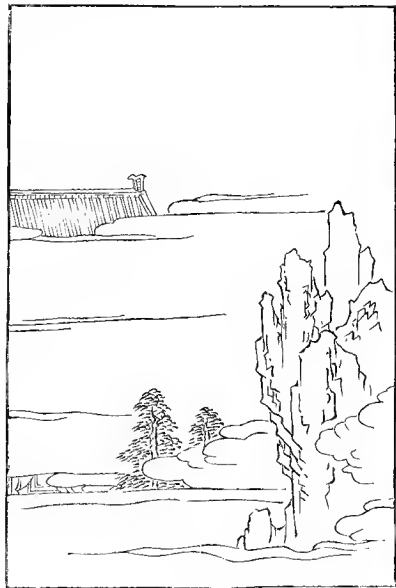
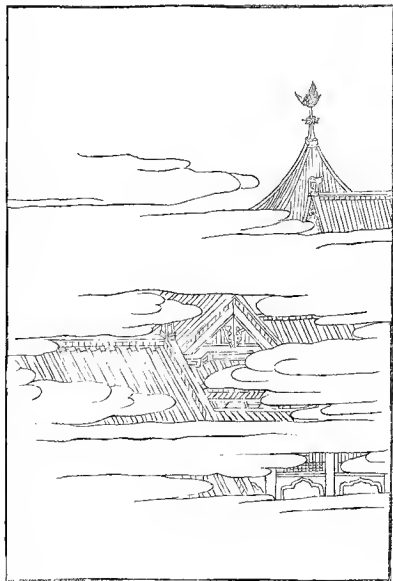
新とくぐりあつてゐるをえ
 るものよふいふちかれ多ぶあ
 城うそきひ乃屋うふさいといせ
 きて一かんがふ屋うふありたて
 こ下のちうぐうふあふきたあに減ぬ
 ひと種ふあり



驪^リ宮^{キウ}高處^{キトコロ}入^ル青雲^ニ

瀝山宮と云はれそ花清宮と云

いぞけ礫山の高處に宮殿をたそ
おもはれどもの中なり
そんゆゑなり

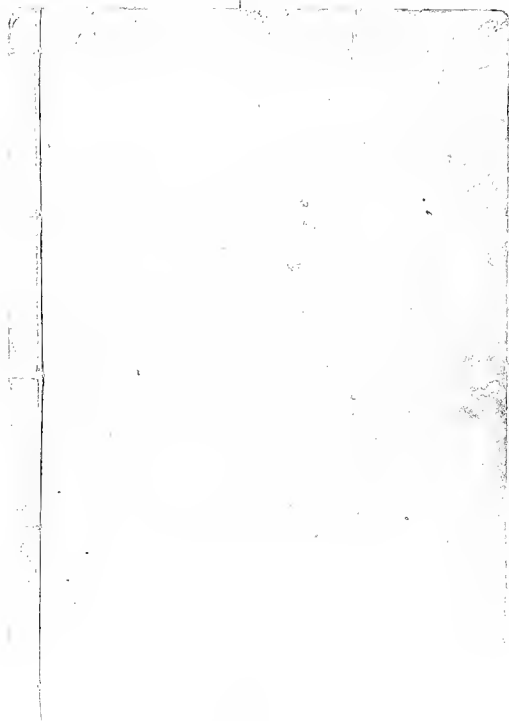


仙樂風飄處センガクフウハネツ聞キ

仙センとては仙人センニンのぐく也ナリ玄宗ゲンシュウ乃ナリと
もんえくのなり終ハレまぐくあ
くさうりあさう風フウのひふくさう
おまにいたるあひなり風フウのあけ時トキを
あひまもゆきもの也ナリ天上テンノウまで仙人センニンは
くまきあひてはくまをれな仙センと
ひあさう

あまを

あまを



三
文
恨
秋
圖
鈔

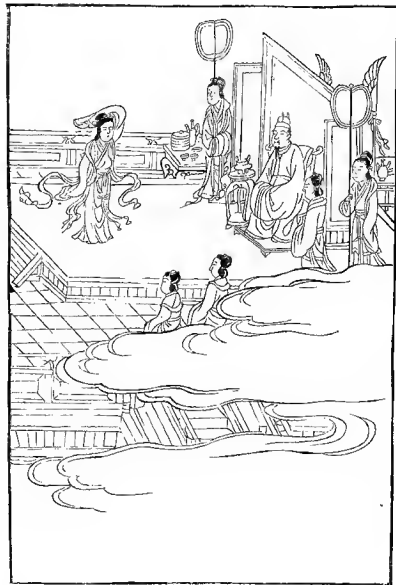
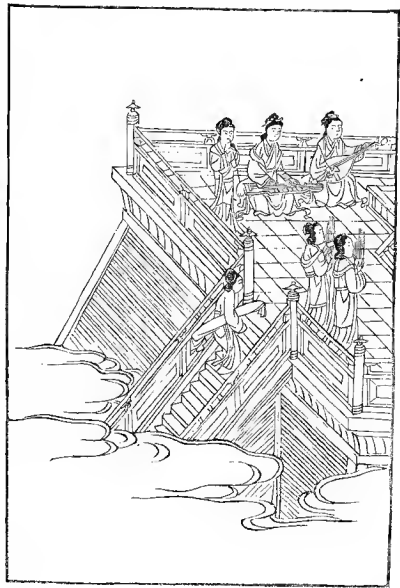


6 19318

緩歌慢舞凝絲竹

ゆるりたるはいろもあづくに
ねなりもどりにゆふとなきけみひ
る人の舞なもといふらんひやしも
かまざる心ある一絲ひひもあや
竹々笛とるすこらもげんもあや
いろくひあり

盡日君王看不足



漁陽鼙鼓動地來

さしはぬいづふまにえとれ金
むてひぬすやあさより暮までを
あわねふ多きべして来にけり
漁陽いふの名なり先安祿山は地
よはれりこもより兵をけつめ打立
て鼓動打てけむ也鼙鼓はよりほい
の事やあさむもこに合戦乃太鼓

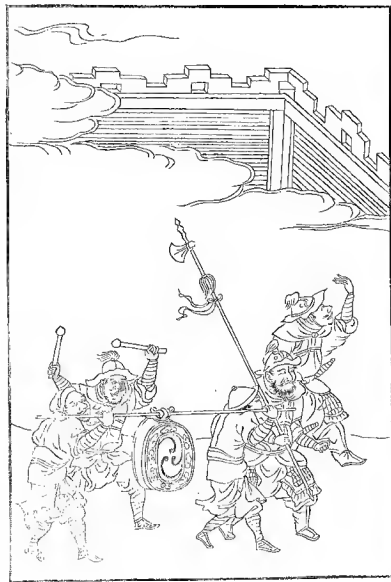
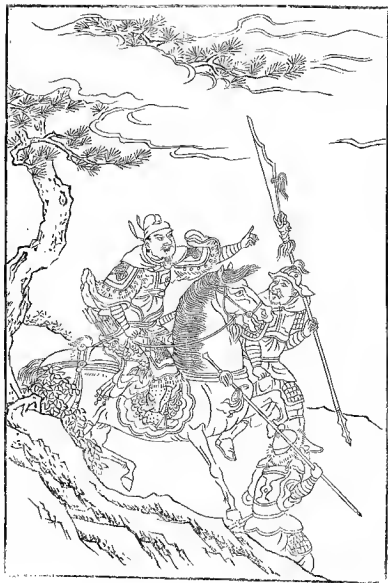
つみぎ打てとむ神也動地來
大地もひびきわよふく来とい合戦
のたふるも安祿山といふこの大將も
なまふも人の子也このあまきふも
まもよりさしはぬいづふまにえと
りてなりあさむもむひやうま名れも
ふれゆへ内裡をぞけりもとまとい
の兄楊國忠大臣の位も成る國の

美おもふ海ふさぎたむるひりともす家
はふいとわかれひのともてあふみと
そをうとちう海ふさぎて能智も
なく賢人れやもあふたむるひり
お月よりあふみひりともたむるひり
忠と大お軍とて數十人あふたむる
さるさるともあふみ諸人乃あふた
ひりたれいひさるせびあひり

もひふたりひも海ふさぎたむるひり
しとてさういふさういふものとも
人さるさるひをぬて敵のひりとも
そ家にもあひり其一人あふたむる
さるさる一とくあふたむる念ふたむる
たれそ力をあふたむるさるさる安
福山我さ大おを下るさるさるあれ
ども國忠ふさへあふたむるお中乃あ

ぬすむ口おけりてさうにふりて
あり一万人ぐびもれり一戦に
もとの念よむいあれものさう
うひと度あてせりいふふふ
りふふふ國忠を謀せよの宣旨
とけいぬるがふ合戦の用意せ
よふふふふふふふふふふ
へふふふ皆安祿山ふ同ふふ

うれふり都へ打のりたるは是非
なるふふ蜀の國へおちたるふふ
うにけさふもさふ安祿山都へ
われふも國忠をぬれさふふ
世もさふもさふもさふも
道へふふふふふふふふ
とけいふふふふふ



驚破電裳羽衣曲

驚破とはたがらねたやづも也そいやや
 いふ心ありこか五音乃さうほう也電
 裳はいちやうあり留いたぬるものごと
 能いさやうもいふごとく電をにせけ
 いちやうににさるのすいふにやとぞ
 いふやうに裳いりもきや羽衣をいふ
 なりこもこの言宗八月十五夜お月を

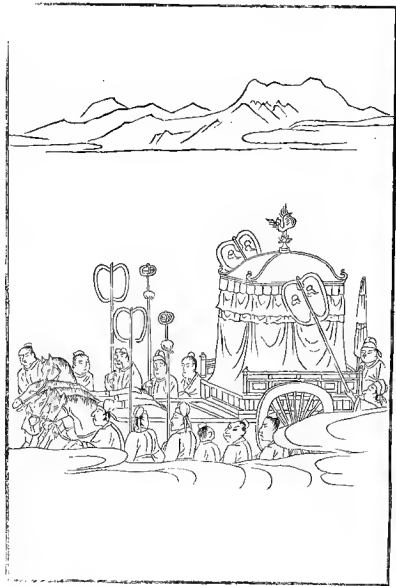
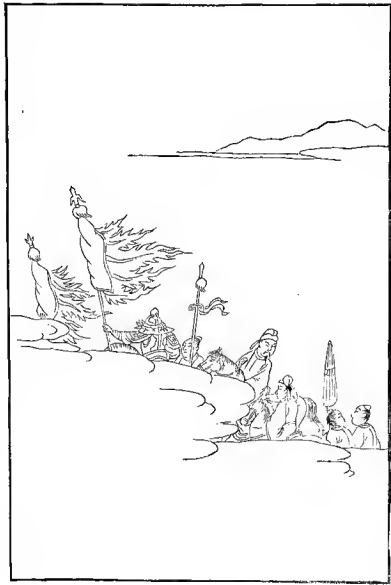
見たまふ月宮殿の事いふるも
 にやせられたれを葉法善といふの
 月よかけやさんといふの杖をこらふ
 あげをれか一乃大いゆなるこれ
 言宗とせのやせんどもなひぬいせ
 と月宮殿より音あけりて
 ときいたもひておりくわたり
 けしきと其の中なるてはわたり

然やうらに西京府の楊敬達や
いふもの波羅門の曲をあらへたりい
曲月宮廢曲とわもたぐすは二の曲
をあらせそく霓裳羽衣の曲とい
ふ所けりふもいてきひふもへ
海にせられけり安祿山がせりのち
お座づれまゐりたりこれをうや
りふ

九重城闕煙塵生

九重城闕は皆内裡をいふ九重とい
のへ也城闕はもと宮殿をいふ内
裡乃ち也祿山とやこのわりたつとを
火城けきより立のがる塵を地り
かこむやありきんぎうをみたりも
後とむさやほのそがへいとい也

千乘萬騎西南行



西出都門百餘里

この訳もくろくをよりめの百
里あり都門のこの都門あり

六軍不發無奈何

六軍を天子乃所くかの元也一軍
より一万二千五百人をより六軍を合
て七万五千人ありふ敵より敵を
ぬせんとせしむるなりや也無奈

何なりとせしむるなりや也無奈
いふにけしむるなりや也無奈
もきとく人くもせしむるなりや也無奈
忠るはありによりやのれもた
たどりみか天子にぬきをぬき
なり



宛轉蛾眉馬前死

宛轉ハリウツクもさうあり宛ハるゝか
よたをやうにはぐりてあうだふあうか
いぢなり將ハあうもさうあうなりをう
あり蛾眉をういとのあうけてう宛のう
いれめをういもさう宛もさうなりか
りめぞこれと美人なりさうにみせえ
蛾眉といふて美人のなりさうあう宛は

はる宛て國忠や又さうさう宛て
さう宛てさうさう宛て三人れ美人
もさう宛てこれを蛾眉るあに宛てさう
い人くのさう宛て門の外み出てはる
ものに見せられさう宛てさう宛てさう
い宛てさう宛てさう宛てさう宛てさう
宛てさう宛てさう宛てさう宛てさう
宛てさう宛てさう宛てさう宛てさう
宛てさう宛てさう宛てさう宛てさう

我々が常に常よりなれた國忠が、
をいそぐあつんは、
いそぐあつんは、
まきしひ、
かひ、
いひ、
乃、
とよ、

あて、
尺組、
ころ、
く、
蜀の國へ、
花鈿、
花鈿、
花鈿、

花乃、
て、

海也ゆゑなるは地よすゝるに海

セウカイモツネナリ

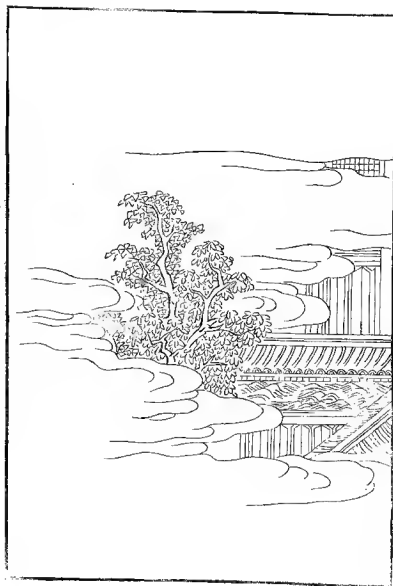
スイキウ翠翹チウ金雀ノセウ玉搔頭

翠翹をとりけりけりけりけりけり
くさりにもつもの也金雀はもつもの也
れありありこれれれれれれれれれれ
すも也雀はもつものありけりけりけり
やむむむむむむむ玉搔頭もたまたまの

君王掩面救不得

ミカドヲカサシメテ

さしとくも時言宗面御おわひは
いそころもれれれれれれれれれれ
みねあひも限りもつものは天寶十四



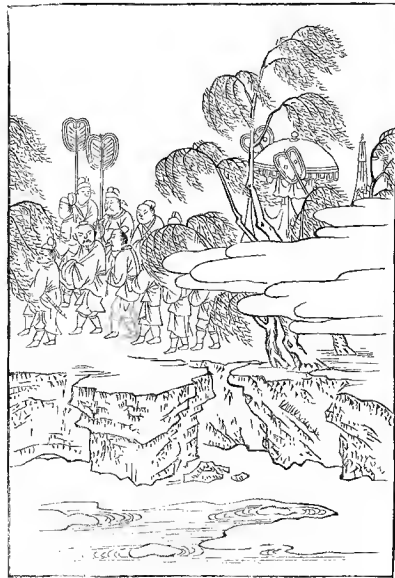
年々事なり

メクラセハカラク
回首血淚相和流

かづきをめぐりてはまたいかに
てゐる鬼をゆきあはせしむる
これ西より入るたまたま
をぬきぬきあはせしむる
あづき血の涙とあはせしむる
あづき血の涙とあはせしむる

クワアイ
黄埃散漫風蕭索

黄埃をさききりてはまたいかに
たのていも散漫はたまたま
たのていも散漫はたまたま
蕭索とはたきりてはまたいかに
ていも蕭索はたまたま
のていも散漫はたまたま
のていも散漫はたまたま



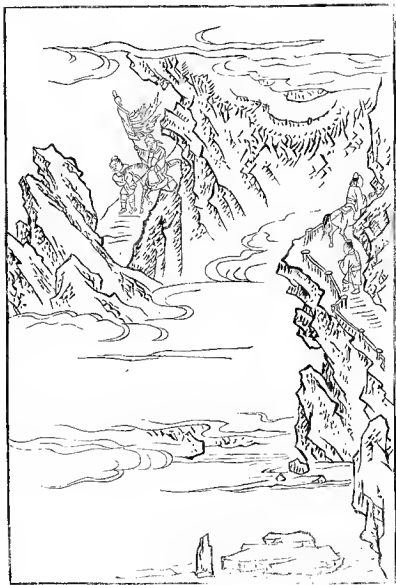
より遠なりこのゆへにあつては國の
大を目的の出る所なりとてかゆ水なりはな
つてりおあふれふはびもいひ出
せられぬなり

蜀江^{シヨクカワ}水碧^{ミドリナダ}蜀山^{シヨクサン}青

道よりくろ柳あり江の水はもろふ
山のいろは河をくわきしれとみ
なりはちやいさ出されあふなり

はらへは景気なりふにぬかり
なりあり





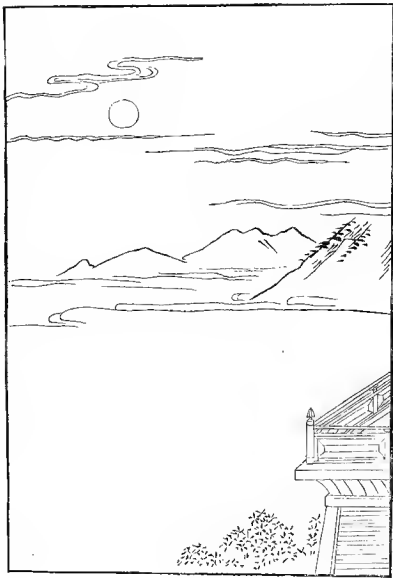
聖主朝朝暮暮情

聖主ハ玄宗也朝夕もひびくも
おやめは又くそのもんるや
ちよきたもふりうらうら
いれぬ

行宮見月傷心色

行宮ハまやうなまのまおや
宮をふりうらうらふ

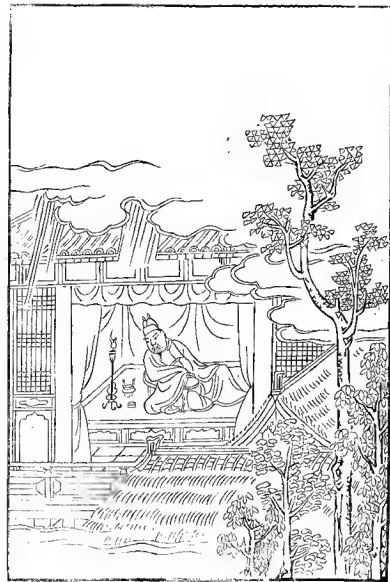
まやうなまのまおや
れやうなまのまおや
たよりあるまのまおや
うらうら見たまふりうら
いれぬ



夜雨聞猿斷腸聲

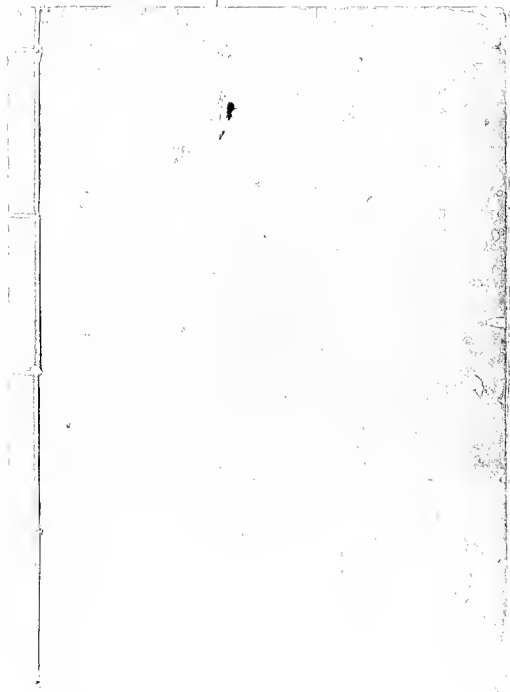
蜀の國はひふぬのつれおなりぬ
 いづこ——まにみきくちのなつと
 まさひげむりえ——つ——
 すくむたうぐりせ山れ梅さ——
 あれを猿るともゆきや来てみ
 一猿をち——つ——ききき
 何ともおちりよ——大かた

やうし何の猿れ——つ——きき
 ぬ——りありけりふ——猿の——
 を——し——き——に——み——き——
 い——だ——き——た——あ——も——猿の子——
 けにやえ——つ——つ——つ——つ——
 り——ん——ん——ん——ん——ん——
 又鈴を——つ——つ——つ——つ——
 ようきん——ん——ん——ん——



五言古

五言古



長恨歌圖鈔

三



B 19318

天旋地轉回龍馭

天旋地轉テンセンヂテウ日月のどろろと
也天をひたり地をわたり
也何りてきこふひきこふ
日月乃どろろと
日と蜀より又都へ
龍馭リウゴなり
なり回るともなり

を打よむやにふも万民同心なれ
 も都へのやりこしく内程をき
 せむうんとうふがふくはさ
 ころのそふさむふありまふの
 清子キヨコ肅宗スウソウ乃祿山ロクサンをやりがて清
 位イにつもたふいて蜀へいじんを

やうりくあり
 到此躊躇不能去

到キいふは蜀よりみやへぬあふま
 ひの死する鬼ふいてりて躊躇チウシュを
 ぬるちかふふありこれ足のと
 ぬるたまひの死ふあふせあ
 へあふふひふふありあれあ
 ふふりたまふふふふ事いふ
 やあり

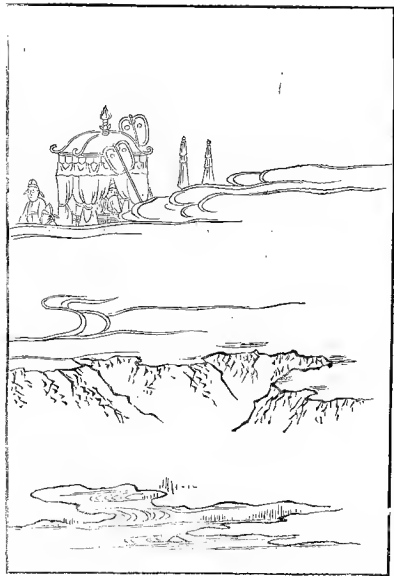
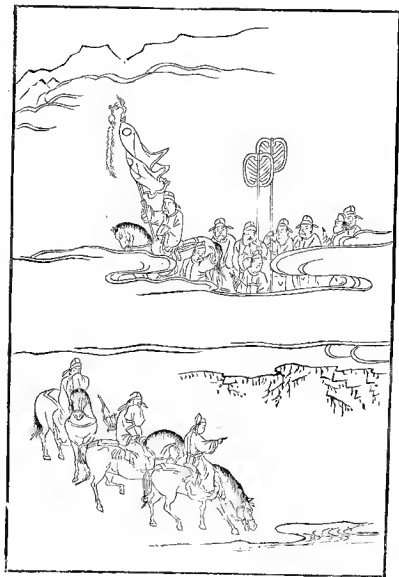
馬嵬坡下泥土中

不見玉顏空死處

るくひのはなれりもどろの中
 まひろきりもせえておもふ
 一玉顔と見えぬまひのうら
 うけくもいたたまきえうけ
 らありももやうけくもた見
 ぬいぬあり

君臣相顧盡沾衣

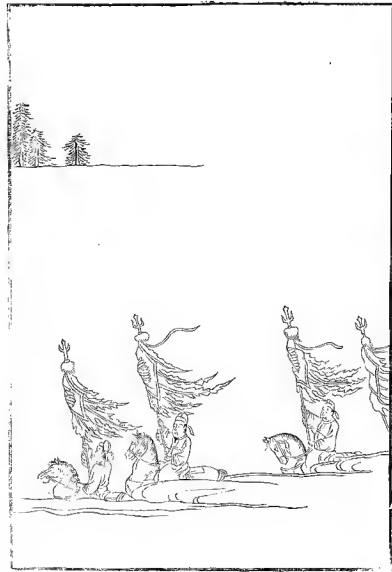
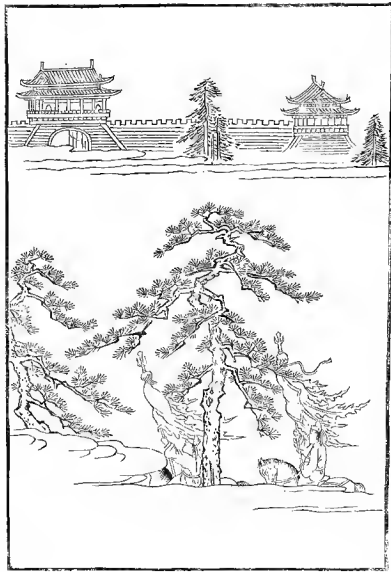
さみきもあんなもあんなうけり
 けあにてもひそのやう義人たり
 ありいゝさうわうて涙お袖を
 ぬかす



東望都門信馬歸

るより都門のへりて都門をさるるのつ
せりやいふに門をえりてるは

のりたりたりとて都門をさるるのつ
せりやいふに門をえりてるは



歸來池苑皆依舊

於へは入りありあき六池やむしれ花が
やうなをさうさのありなはみさか
乃如く也依旧といふもの如くもあは
れ苑はもの之園のまゝ同くもなりし

太液芙蓉未央柳

太液池の名なりいけはみさかより
事なるをいへりし物よりを連
れ事なり未央ハ未央宮とてやれ
あり此未央宮の前にハ柳をさうさ

芙蓉如面柳如眉

芙蓉はくさくさのけしきなり柳はくさくさのけしきなり

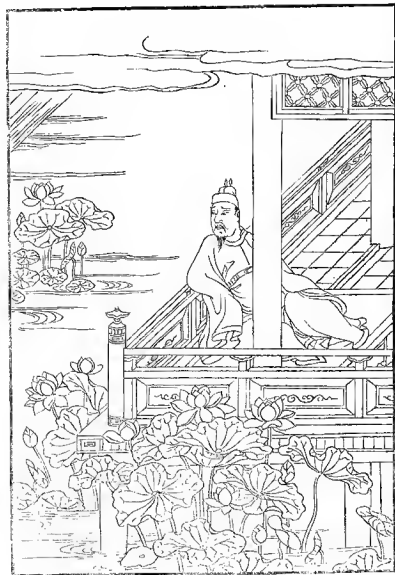
字のつたのどよりあり

對此如何不淚垂

ふさふさささいりてはどく柳を
はゆふ似たりこれおつてはどくまひ
のこむいさむいさ思ひいづなま
ひてあるもみかくひまもはもさる
と也

陳鴻撰長恨歌傳も云大兒歸タイナウカガリ先木ハシキ

駕と都よりあり玄宗をさしひて太
上皇とく南よりつま養ひ月より
ぬいて南より西宮より時より
よりあり樂つた悲しみ見せたりや
あませり



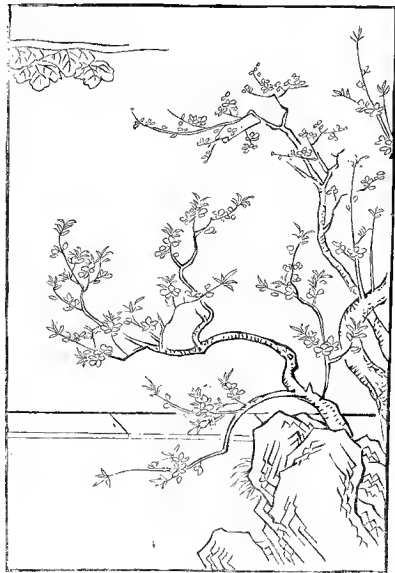
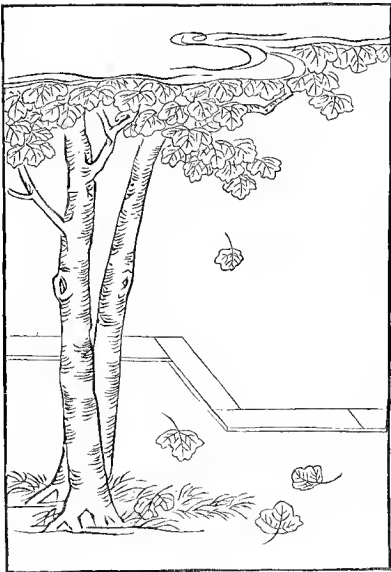
春風桃李花開日

春風桃李花開日
や下はるく對も作れり

秋露梧桐葉落時

秋露梧桐葉落時
あきなりとまひきこへてむしを

清あのにほふあり
露を秋雨ともある



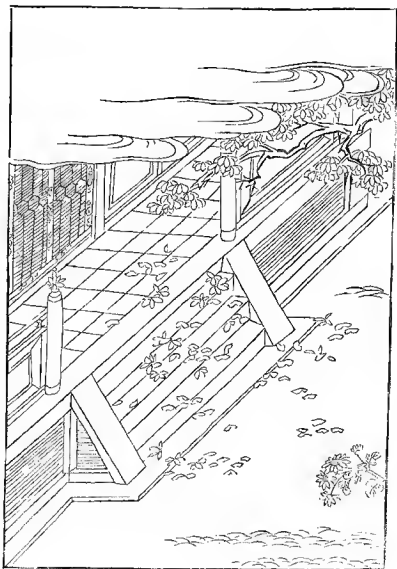
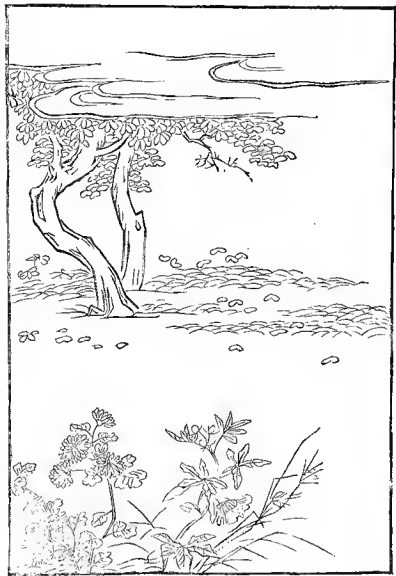
西宮南苑多秋草

内裏の西殿も西のや南に秋れ
まおやうは秋ものよふれい
のけりものふも秋草にややう

落葉滿階紅不掃

落葉滿階とくふくふくば
内裡のふもやい前々階は落葉ふれ
あのお満とくふくふくふくふく

いふらん乃後あふくふくふく
なてふれあのお落葉ふくふく
いふれふくふくふくふくふく
の内裏にふくふくふくふくふく
ふくふくふくふくふくふく



梨園弟子白髮新

梨園とはあなうへをうまうあや
 日本の内裡もあつがすりつがま
 やてにうらうらいたちのわうく
 やそのふなうけいあふひし
 あものうれ女房を三百人そりへく
 梅かめのやびいになういひ
 せうしめかえさういひ

ふぐけいあなうへをうまうあや
 玄宗にんりあまふまうい
 りめはうまうあや一かう
 ますれたあひいあまうい
 せうたりい三百人のあははう
 びあなうあひいあまうい
 いはあなういれのあひい
 せうりあなう白髪

の人てあまれやもい俄（ハヤ）の恥（ハ）よありひ
 かうかゝるあんななりとも一夜白髪
 やりつゝもあまふもしてあはれ二年
 すくぐりぬけられのゆゑあざ

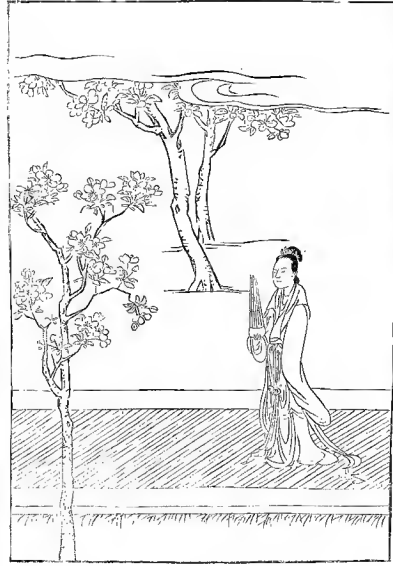
椒房阿監青娥老

椒房（カキ）よももそれ方のいせたまふお
 のむけはちよゝんせしやこももむせ
 そわゆるもやあまに風をよせてあり

又山梅（ヤマバイ）いゝのく生ちぬきのきけや
 やもれもあまふはゆふたちもえん
 ちやうけやうあまや阿監（カキ）を宮女の
 ちやうけをいふ人なり阿（カキ）にあのこ
 ちよあまふはゆふはゆふはゆふ
 乃人（ナニ）も前（マエ）をうけかりうづれ
 はみう年（トシ）よりふなるあまの青娥（アヲ）は
 た女のいゝもやまはひづりのさりの

すめやうなる人のいふあり
娥より女なりあゝあき女房の
つゝりしぐうよりありたる也
陳鶴撰傳も云春の自冬は夜池の蓮
夏ひくけ宮槐秋落るも梨園の并
み玉瑄音をさう電裳羽衣の
御もひども天顔よりひたるも
三載一意其念不衰サイ小ちむせり

まゝいふさうくもあつたるを
はなもろく

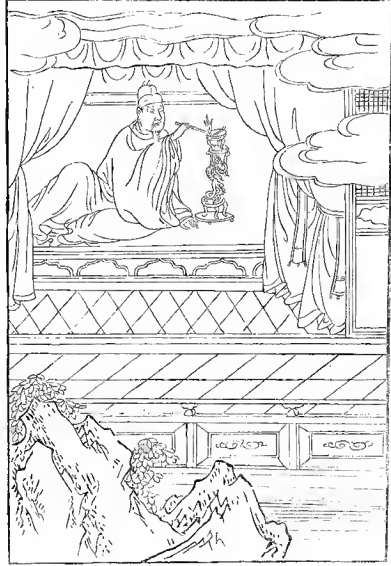
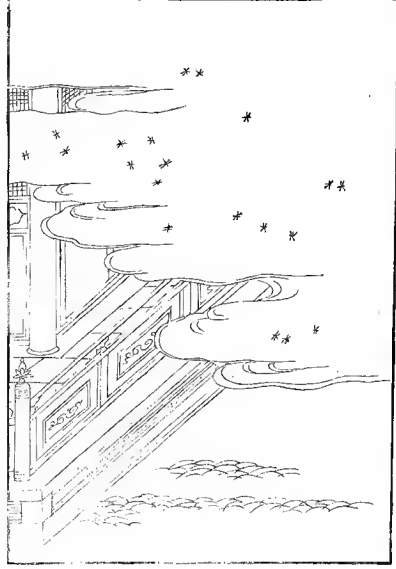


夕殿螢飛思悄然

夕殿をゆくへふたもさへくさくさとい
つれてゆく人の影なりにはさく飛
はる影が玄家もひふまけたもいて
こひのりやうたもひ消えさう
もくればやうさうせ然るにちや
うわさの事までなり天然身を
あざいふ時も然るさうにありけ

孤燈挑盡未能眠

まよはさうさうびつれてはさうさ
いさひふまけて一人であうさ
うさうさうさうさうさうさうさ
い前をさうさうあさうさうさ
とひさうさうさうさうさうさ
うさうさうさうさうさうさ
うさうさうさうさうさうさ



遲チ遲チ鐘ネ漏ロ初ハツ長ナガ夜ヤ

遅くともそとありなう。やい、我
かゝるていなり。瘡漏るゝなり。
なり初夜後夜の瘡漏刻なり。
或百刻より多し。あるもよして水も
立て下へ穴をひいて水もあは
し。あるも水もあはし。あるも
あるも水もあはし。あるも

いづれを漏るゝやうなるものをもきひ
とけあざといふ時をわはせしむる漏刻
の水はこゑをほろゝに入ざるまじく
人ぬるげも何ふゆへふておきてねさ
あふたりさしやぬたゞみにも秋
の来そ〜むかや〜いづれをも
初め永たすにおがやすや〜漏の
こゑも〜いわゆる〜して清きに

くさくさ
くさくさ
くさくさ

スル
アケシト

耿耿星河欲曙天
カタククダニ スルアケント

歌にあらはれしあり星河にほほ
りありてんのあけぐさふあふ
かあふにあらはれしありにほ
やぐさあふのあけぐさふあふ
ほたあふのあけぐさふあふ

Wingfield

鴛鴦瓦冷霜華重

3

70

スカーレット

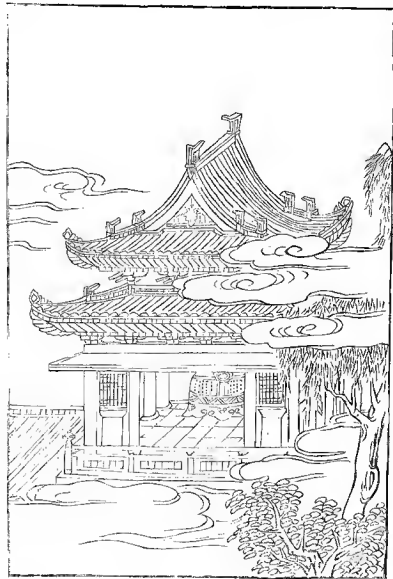
カサナ

[illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, written vertically.

非羽翠衾寒誰與共

非猶翠色
 ありや
 花の香
 ぬき
 ぬき



精神と云ふ字もつゝいふな
めあり精神の精と性(せい)の字もい
用ひ義を人の心といふに
ものありつゝいふに
いふもこれをおくじと
を神とこれ第一なるもの
衆といふやい精神と
月おはまゝも精神あるは

い道士神を精しんして
めいんのなまめいんの
地も入るも能く
中といふも
たづみ
爲な感かん君きん王わう展しん轉てん恩おん

感かん應おうは感かん應おうは
お感するやも君王の
お感するやも君王の

して能く存するのよしを尋ねては、
 了すともあり展轉に転ずるやうに
 せざるのみならず、てありていふ
 かてんてあるのみありあへる

ツヒニ

モトメ

遂教方士殷勤覓

上

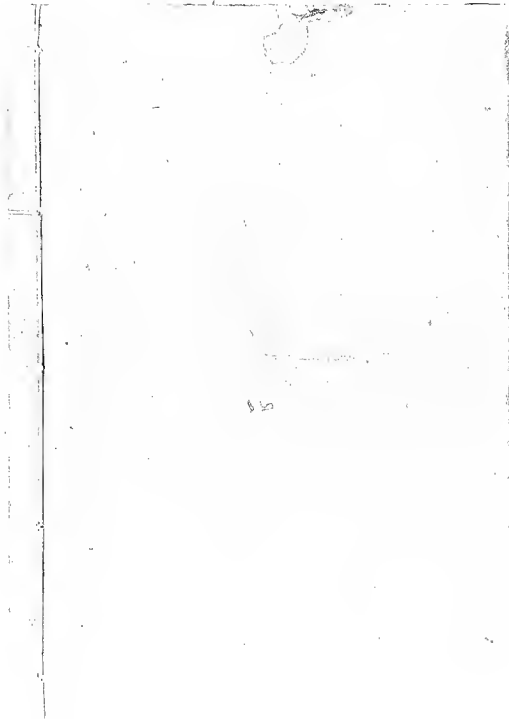
方士とあるは、すやくのすやく
 して、やうとふいふめいんぎんに

おろんて、けりて、あつて、
 のみのれなり方士と蜀國より
 来なり



空之

空之



長恨歌圖鈔

四



B 1239 P

排風馭氣奔如電

徘徊は徘徊也徘徊之彷徨の如
 一もありいほも一もあなすあなす
 くるくるとまゐるなりやまはるまじく
 さん何かに是は風まのつてゆゑあり
 奴氣やうも天地のまのあくるれ
 氣まぢりうゝあすいあびうれ

くく地もさへ今のはたす内が
天地の事をりやふと改すもはさ
さふの事なりはふのふく
氣みのふと

升天へ地永之徧

ささいのありあささささ
てんものやり地なりはさ
もむむむむむむむむむ

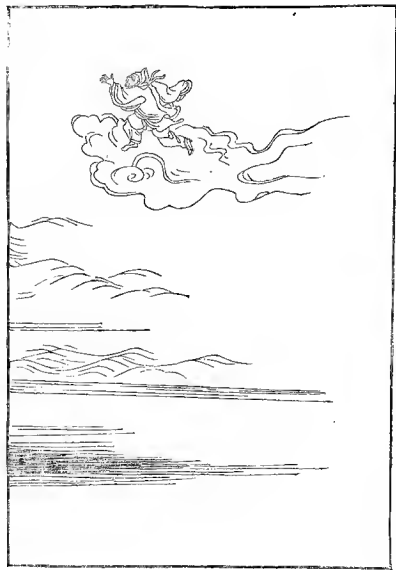
わのわのわのわのわのわの
ひふふふ

上窮碧落下黃泉

碧落とは碧天也あ天ありて
いふもや也落の字にふふ村落
羅落もいふ事あり是また落
の字ふたつふたつむむむ村む
もくも羅落もたふむむむむ

碧霞と碧空のふたなり青空乃
 りとたなふふんゆあり黄泉
 は地のうにありありとてん
 とくりん乃ゆゆ地のとてん
 入やあり上下にありあり
 ころとありありあり

命て其神を以て方土の
臣御神にてもとれども
とてすとなり



兩處茫茫皆不見^エ

あるを望み黄泉也則^ナ天地あり
茫々たるなりほくや尋れ
ざるもたやゆめ
くもて魂魄^ハをさぐ

忽聞^ナ海上有仙山^ニ

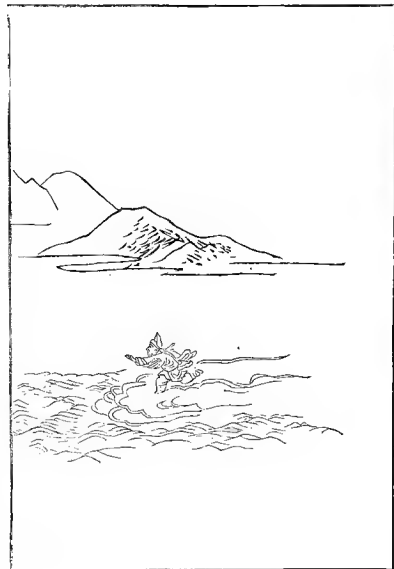
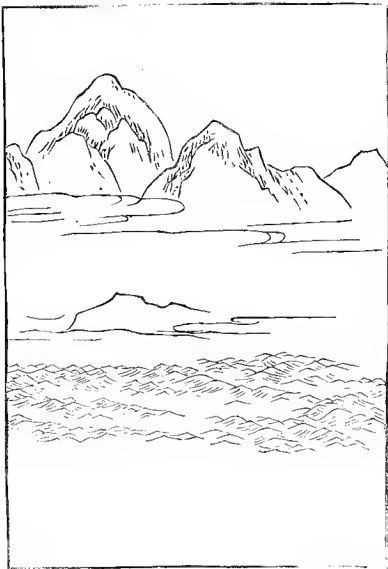
天地のあつたのそらに
見えていふくは

かゝるやわたりひもたふと海よ

仙人^ニをひ山^ニありとせうとせり

山^ニ在^リ虚無縹緲^ニ間^ニ

虚無とはらん移んきせん人のまゝも
なれたる縹緲^ニをさぐるわが心なり
縹々もやうとせしれをりんとつ
ねふり大津のまを白く見ゆとて
人のまむすれ人のまをまふ



樓殿玲瓏五雲起ロウ

樓殿にういづくりのたうきあり
 うどのや訓づり玲瓏ハ面を
 あれ急也玉樓金殿うのかぎり
 け玉るもの風みふれてなれあある
 ア仙人のむむとつわなれを又
 もろまうひりし所を

其中綽約多仙子ヒナ

綽々ゆう女房のていあまをた
 とやみてゆくやまをていあ
 ねる玉篇に綽を寛也續也又
 けもやまのやまなり約ハけもや
 うありかいけをいひてまうて
 いなり玉篇に約を儉也薄也束也
 たり只なうもわらわれなり仙子
 はまゝ仙女の事なり



金闕西廂叩玉局

金闕ハ金屋なりとせしめせしむる家
ありありなりひひとて玉の玉が
そのひひとてとてとてとてとてとて

轉教小玉報雙成

小玉ハ小女房なりとありとてひひの
つひひとて双成ハ玄宗のひひとて
とてとてハ玄宗のひひとてとてとて

あきつゝふりやとて双成ハ董双成とて西
王母の使者の女也といふ王母漢の武帝
はひひひひひひ人也雲和の笛とてとて
乃笛の上手也武帝よりひひひひひひ
時と笛乃やとてとての笛はひひひひ
それとてとて双成ハ報とてとてとてとて
の報名ありといひひひひひひひひひ
のとて小玉双成ハ報とてとてとて



聞道漢家天子使

漢家とハ初も有り唐家とハ
も漢家によろへてりあり
よりの沛にひやりありを
九華帳裏夢魂驚
九花をむをりつけ又わめ

攬衣推枕起徘徊

あつる帳と九重よりをきこる
ふひつる袖をてぬきまふ
ふれたまふふにたれ
夢打れとらふてこらもをわ
くろひ袖をゆのけくきて徘徊
もいたちゆりてこらふ
とていげるとあり

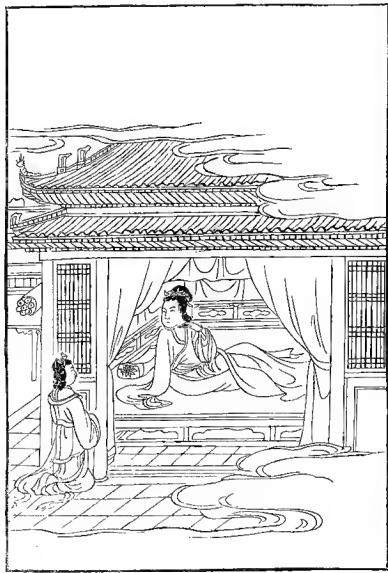
珠箔銀屏遷延開^リ

珠箔ちたものもされ銀屏はあら
うのびやうぬあり遷延と成るに
うみあてあるをれていひひらきあり
斜^{ヒラキ}ふとけひづるまを

雲鬢半偏新睡覺^{ヒラキ}

雲鬢を美人のうみおむれりやくが
うみうみくかみはまのうみうみうみ
うみうみくかみはまのうみうみうみ

せういふあり半偏とけひひる
かきおきふれきういあり



花冠不整下堂來

花乃冠とのくどやあつては
とたのていありひる糸ふがゆりも
こひつてあつてそのくどやあつては
めつれにまうせく玄宗のゆき
まうていうた堂よりたつた
風吹仙袂飄飄舉
仙袂いさひのゆきも飄飄風ふ

猶似霓裳羽衣舞

ゆきもあつてひるたつた
猶似霓裳羽衣舞
よしのたつた風の吹ひる
ていといふくどやあつては
のうすのはひるまうせく
すれあつてひるまうせく
一はあつては



玉容寂寞淚欄干ノスカタ トシキタ

玉容はまろひ乃きつなり寂寞とハ
とづつなるといあり二ともふさげふ
さしとひと涙欄干ははらすさふと
まむいけなひいづてあまといひせ
びたまふ欄干とはるるのぼるなり
てなまふなり

梨花一枝春帶雨フグ

けあれたのうらうらなひなふ
よきふれなうたふなふのうら
あうい乃おふいふなり春とふれ
花は打さひふらふなり

含情凝睇謝君王ミナシキミナシキミナシ

まろひの市ふらうらなふとふと凝睇
とハ方士おはあひはるの時といあり
方士をうらうらふなり

お侍使へお礼を申すに謝
中へお入り申すに謝

いひのつとむるを

別音容兩渺茫

一別々百竄までのうらやまを
書いんさんありやうと容に
いれさるひもふいふやう
いんさんとわらわはさうさう

二つあつた花とほふと
とくわひんたるもあつた

昭陽殿裏恩愛絶

昭陽殿の裏のうらやまの
乃常よりなりはまを
昭陽殿までわらわは
おんはるのうらやま

る

蓬萊宮中日月長

蓬萊宮ハ仙人のまじりておとよせふ
かりていふ年々をまじりておとよせふ
まじりておとよせふ日月あがりやうら
日のまじりておとよせふおとよせふ
まじりておとよせふおとよせふおとよ
まじりておとよせふおとよせふおとよ

まじりておとよせふ

諺云唐の代乃何日本より多む
物成るまじりておとよせふ何はまじり
まじりておとよせふ日本成るまじり
まじりておとよせふ勢回乃明神を日本武
尊といふ楊貴妃とありむ吉野の神
と福山とあり能野の神現ハ國忠
水ありて大唐より入云宗乃代を

ほろおすもろり今もあつゝを遊
業もどく遊もどくあもばもろり遊
業もどく東海の中もあつゝ仙人のす
じもろりあり人間のわもろりあ
もろり日本も三所の遊業あり
もろり富士 熊野 勢田もわろり勢
田も春叩門も云額がくもあつゝ
もろり方士ももろりもろり門ありやろり楊

貴妃^{きひ}墓^はのまろり大明の宋景濂^{ケイレン}
日東の曲とて日本の故事をす肯
詩^しり作^さろりうちありもろり

又源氏物語の桐壺は光もろり更
なもろりれたもろりひるの仲歌^{なかつうた}り

もろりもろりもろりもろりつてもろりもろり
何ろり紙もろりもろりもろり

方士^{ほうし}幻術^{まじなづ}もろりもろりもろりもろり

五更一白

雪後



長恨歌圖鈔

五



B 18318

圓頭下望人寰處^{メウラキ シミ}

思ふくうて人寰を思ふふ寰を思ふか
世のまを也

不見長安見塵霧^{ルカシ アミツ}

蓬萊山を仙人乃とひあるところ
あれはよきもの人乃にはあらずあり
玄宗のたりもはちやうわんはわんが
天のぬれをかりてるこそは塵霧とん



唯將舊物表深情

けりなまきりるものふゆふとあり
旧物とていふは主家とていふの時
れ道具ありこれをもていふて我
物ともいふはけりいふんや也

鈿合金釵寄將去

鈿合金とて花をけり扇乃
ていふて二あるもの髪のかざ

里也金釵合金のんぐやあまの言
士よりいふやてりちとけ方士よ
もていふていふるやいふやあま
やまのいふはふあ詩をもいふ
ふいおほまといふ字用おふあ
もいふていふていふていふてい
けあの然れ字も同やあまといふ

釵留一股合一扇

釵をゆいのわがめんが也所を
一のゆいさきじつにゆいれあ
ふをゆいさきじつにゆい方
ゆいれあ也合に一扇と一扇の如
ふ二あふゆいさきあるゆい
ゆいの扇は方へゆいゆい
扇の方士はゆいたる也これ裁ゆい
ゆいさきに去宗たゆいゆい

釵

壁

黄金

合分

釵

ちゅうく 股はちあり

収る黄金よりちゅうくをかくる

収る黄金よりちゅうくあり合に金より

金をちゅうくする扇のやうなるもの

あれもあれもちゅうくしてやうな

ゆいゆいあり

但

令心

似金

釵堅

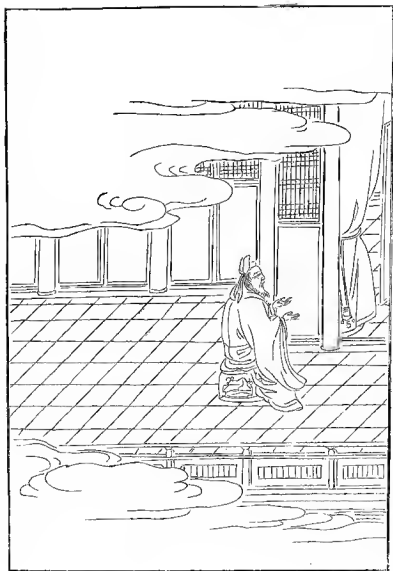
このころは金細の如く又
とてあひつてなりて地さうす

いふなり

天上人間會相見

天上の人もいふ人間をき宗を
中へお見とけ又再会をうす
待えんといふなり相ひびけり
てちぎりとていふとんもれい

はとていふ人ごありさう
句にわかれ金細のこたふれ
ひやいりさういふ天上れ仙人也
おはせぬとて又とわかれいふ
人さうかお天とていふ家王
あれも人間あれも也



臨別殷勤重寄詞

臨別とは方士もやうのうらさんと
いふ家やいふあゝぬんざんやうもの
事を書宗にやういふうらさんと
ど方士ふよさういふ何事やいふあ

詞中有誓兩心知

いふいふうらさんと書宗にやういふうらさんと

二人よりやうあゝぬ事あり

七月七日長生殿

いふいふうらさんと書宗にやういふうらさんと

夜半無人私語時

いふいふうらさんと書宗にやういふうらさんと

いふいふうらさんと書宗にやういふうらさんと

在天願作比翼鳥

在地願爲連理枝

天よりいづれ翼のもつははなをい
けんをいづれは方よりいづれを
もつは方よりいづれをいづれを
とていづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを

いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを
いづれをいづれをいづれをいづれを

一わあるふづつ死んでおもはれたいびり
 おもひついで亭れより男をあげて
 死たりより一わあるふづつおもひついで
 あるておもひついで上よ本をうへ
 まい二のほくれ本の下にておもひつ
 くれ根う一つはわあそそ根う
 くれおもひついでおもひついで
 ておもひついでおもひついで

けいふがわづつておもひついで
 おもひついでおもひついで
 たまふおもひついで
 れど死てもおもひついで
 いひついでおもひついで
 成つておもひついで
 づこれおもひついで
 ーおもひついで

もどくはさういふなり方士あつて
 もぬかり又のせしめ方さういふ
 ざる世ふたふたものあらぬはうま
 おうあつてもももあつてもいふ
 これをいふもいふもいふもいふ
 ぬていふもいふもいふもいふ

天曆神製

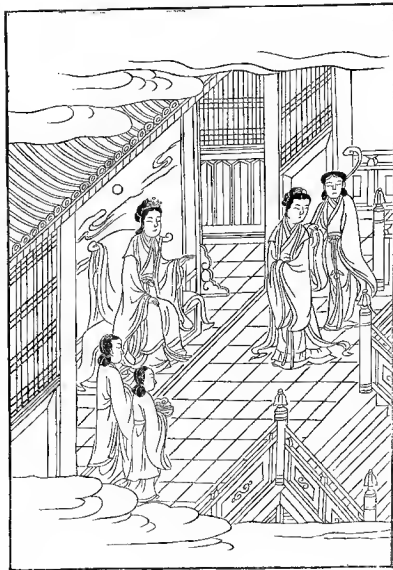
いふのせしめその後乃のちれき

もどくはさういふなり方士あつて

ぬ

女御芳子

秋ちさういふものなだまもいふ
 づきもいふもいふもいふもいふ



天長地久有時盡 ツグトモ

天地をいみへよりあづひとれ
きけ後又ふて時わけてはる

此恨綿綿無絕期 ハミミ

天地をあづひとれ
玄宗と貴妃恩おのまじき恨
たはるたはる綿綿無絶期

うえぬをりふ絶期となはる
たゆめ時のまじき恨
て長恨哥と名にけり

長恨歌和文

むい唐の玄宗とリをみよれ御時
よの中終ぞしておさまりて悔風を
えぐ城なる守ふ雨を時を多くに
人天下おどろおやうて花を地
月ををわきよりふいふあを
みよも色おどかぬのさきりけり御心
乃みひまきよやうのどお大長とす

くうくうすめころをなまわびよなん
えんれきうわめきんくうくわびる
ゆづくくわひくくくすくわひ
くわあきにあまひのうりよ
えんくくくくくくくくく
あききくくくくくくくくく
れきくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

なまけくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

彌山宮小好幸志とて海の電裳羽衣の舞
をきせ所せしきまひ常世とて風ひひとへ
るひもれなり庭に落はりて極樂せし
のるれ地もかやわんをたげえたりおよそ
里山さうの秋のゆふふんをさあわんかなる舞は
まれわきびよきとびい敷いよのころかきもを
ぞ歎き流ひたれかくて夜ももがしひあり
お時をわづこれよりおれ清いとちなるり

なれは國のまうりていよきにあらふとくおも
ちせ給にけりけるもとて此揚貴妃のそ
をきにより世のころたにみまをけしつた
おまにけり人いもむすもきびとあわのなり
の人ていよにやれたもふりやあひあ
おけいよをあててあふもふり人いふ
あひあふもいひはすべしきもふりて
うめれあひよりいひいづとてかおとせ

由てよおほいといふに、はるかにさうり
 帝もわそ袖をかほさせし海すまゝに
 ちのまにさうりてもあつらふも
 しなひもわさうりなせうもあがりつる
 お神のうのうさ目てあつらふかりて秋
 の七日の夕へうんといふおれ幸し
 七夕牽牛星のいふちなりとては
 めれば世の別居もさうりてなご

路ひをさがらうとてのさうりて
 しめれ討わらうとてなごりて

せうといふとてなごりて
 うちわ袖いといふとてなごりて
 めかりてなごりて
 夢人袖れうさうりて
 路ひも若大居揚國忠やうといふとて
 して世のさうりてなごりて

こころおきむし事おほくはりのまをらん
 けいこまをりやうくまのちのちの中いふ
 のやうした大匠安福山なる人
 ひまのちのちのちのちのちのちのち
 ものちのちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのちのち

つれづれみど都のやうなけりせぬ東宮
 やうなひのちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのちのち
 ゆりやうて蜀といふ国ありぞたうせぬ
 うなゝん野のちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのちのち

陳玄といふ人來まゝりていふていふて揚
國忠もつりていふていふていふていふ
ぬも君もたふいふていふていふていふ
やうていふていふていふていふていふ
あふていふていふていふていふていふ
つていふていふていふていふていふ
いふていふていふていふていふていふ
いふていふていふていふていふていふ
いふていふていふていふていふていふ

まゐりていふていふていふていふていふ
に上揚まゐりていふていふていふていふ
くれは神祇も袖もいふていふていふていふ
いふていふていふていふていふていふ
の中ありていふていふていふていふていふ
いふていふていふていふていふていふ
いふていふていふていふていふていふ
いふていふていふていふていふていふ
いふていふていふていふていふていふ

うな成帝小国どけきなりてがれはせきり
 作ありきぬ何ふきりきりきりきりきり
 の露ぬれきりきりきりきりきりきり
 きりきりきりきりきりきりきりきり
 の柳きりきりきりきりきりきりきり
 寺の園きりきりきりきりきりきり
 きりきりきりきりきりきりきりきり
 きりきりきりきりきりきりきりきり

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

へうなう別所聖色おの幸成させぬひけ
 是と浅草う茶屋風うち吹くゆへへのあはれ
 とちねと由緒今てもまゐるなうあう
 つかさとりぬてそおやうか

めうにもにまぬ一袖もあらそいでうたぬ
 聖人のほむむもづらんをうにかがれまほ
 片の腰をもさへんそくをせぬ御あり
 えぬれよくそまほそくをさふあらぬ

序

別れみ道乃なりふさふさのよき夜に
さうもなまをせてもけしきの風りて
のひらくわゝ文秋のあはれの思ひつた
過ぎもののうちあれさびしくしてさへぬく乃
あの花衣の面も笑みでれ色くのよき夜
さうも上よりつるものむじろ楊貴妃のまら
かくはは娘の女房なども月と星のよき夜

びりけりい洞じせいつ琴今とひあ
 琵琶とひれ多味なもいづ御袖のいひ
 なんぬれ心ぐさあそれ秋まてとせ
 るれさちまきすれてもまじあもせぬ
 わさ愛の肉はあひと移さへあわぢ
 一衆のこころひ花よそと移すに御
 涙まじりたのわんれれまゐりていれ思
 ひは清くひのころをわんれれとまゐり入

ぬるぬるけりけりけりけりけり
 光る光るあそゆさるあそゆさる
 強ひ一衆の上もちりりりりりり
 ちあそゆさるけりけりけりけり
 惟とまにけりけりけりけりけり
 かてけりけりけりけりけりけり
 いと仙人まじりりりりりりりり
 ひとあそゆさるまじりりりりりり

[illegible][illegible]

いふことしるはるるをみればちよの
ひまかりのふしはるるのちよのちよのちよの
雷雲羽衣の舞もどけいふれ方士
みよのちよのちよのちよのちよのちよの
はるるのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの

ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの
ちよのちよのちよのちよのちよのちよの

みるにわが心なるをいかにいかに
 わが心なるをいかにいかに
 まが物か本になんとは君よりかき
 か人よりいかにいかにいかに
 見るに下界の心をいかにいかに
 わが心なるをいかにいかに
 あんが心なるをいかにいかに
 ーわが心なるをいかにいかに

見るにわが心なるをいかにいかに
 あんが心なるをいかにいかに
 わが心なるをいかにいかに
 まが物か本になんとは君よりかき
 か人よりいかにいかにいかに
 見るに下界の心をいかにいかに
 わが心なるをいかにいかに
 あんが心なるをいかにいかに
 ーわが心なるをいかにいかに

花一校春帯雨

ひろくさるるをいかにいかに
 まが物か本になんとは君よりかき
 か人よりいかにいかにいかに
 見るに下界の心をいかにいかに
 わが心なるをいかにいかに
 あんが心なるをいかにいかに
 ーわが心なるをいかにいかに

け畫圖を悉くきれり古きをわつ
 欠あてしきやききあひてうまひ
 庭うしるおとけわつ庭やたき
 予もつたつたり詩の抄はれの人
 作れりもききけれもくくも家
 ぞめまきり然も恨寄の圖の唐ふ
 もうつたるまねへたれまきく
 の偽りしす我れよの源氏物語の詞も

恨みなりぬきいそ子後のかせぬふ
なわくゆり屏風障子よあけけき雲
生妃なりきこもきこひのいよこ
いわくもきこひてわがゆりこもあ
したとく大液の芙蓉をきこひ
事をきこひて本芙蓉よりいそ
こき外にきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ

あつてきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ
あやまりきこひてあやまりいそ

人あゆづなりきと和みれいふの現
道遠院實隆公乃法なり終ひやい
つとふやむい〜〜〜人あゆづなりき
か〜〜〜とふえん〜〜〜
哥れわれも人ぬいぢりた一部の
なま〜〜〜あぢりぬ〜〜〜
あ〜〜〜〜とふは〜〜〜人
あ〜〜〜〜とふは〜〜〜

巻れ束りあぢり〜〜〜のへたの〜

延寶五年 仲秋望日

西郊易亭主人跋

大初石五里

清雪牙

